

「働く」ということ

私たちは、この世に生まれて育ち、よく学びよく遊び、そして働いて人生を過ごしていきます。医師という仕事を選んだ立場で「働く」ことについて考えてみました。

働き方改革 昨年4月、いよいよ勤務医師にも働き方改革が適用されました。働きやすい環境を作り、地域で必要な医療を持続的に提供できる社会にすることが目標です。しかしながら、医師の仕事は日常診療に加えて、救急疾患への対応、地域での健康、啓発活動、学問的な自己研鑽など、非常に多岐にわたります。私は日本医師会の認定産業医を取得し、医師の労働を管理する立場にありますが、この改革がどんな結果を導き出せるのか興味深いところです。

福澤心訓 医学部受験に厳しさを感じた時、慶應義塾大学の理工学部を考えた時があって…それはさておき。諭吉先生の言か諸説ある「福澤心訓」ですが、実家の壁に掛かっていた記憶があります。この訓辞は心の奥に淡く残っていましたが、「世の中で一番楽しく立派な事は一生涯を貫く仕事を持つ事」という一条が、医師の仕事に就く際に蘇ってきたものです。現代の考えに添うかわかりませんが、この仕事に人生を尽くすという覚悟の礎でした。

ぶつかり合っても 「働く人の人生に向き合おう」これは産業医の心得です。もちろん医師として患者の人生にも向き合いますが、働く仲間の人生とも影響し合っています。チーム医療の中では、各職種の専門性が対立することもありながら、少しでも正解に近づけるよう協働していくことが大切です。そして、さまざまな意見を素直に言い合える、心理的安全性の高い職場環境であるべきだと考えています。

できたこと ある部署のミーティングで、この1カ月で「できたこと」を発表する取り組みを試みました。思いのほか生き生きと笑顔で話す様子が印象的でした。私たちの受けてきた教育は、できないことに注目されてきたと思いませんか。90点を取った時、なぜ10点を間違えたのか？そこを追求することよりも、90%できたじゃないか！この方がモチベーションを高めて良い結果につながるはずです。

参考：できたことノート（永谷研一 2016）

人の評価とは 「自分の価値を信じよ。価値があるかと心配するのは無意味なことである」本屋でふと手に取った書籍の言葉です。自己評価と他者評価にはギャップがあるものですが、大切なのは自分の働く理由を考えることでしょう。お金のためか、家族のためか、自身の存在証明か、社会のためか、単なる暇つぶしか。どんな理由であったとしても、私は自分が良し！と評価したことをやり抜くことが何より大切だと思います。

参考：エマソンー自分を信じ抜く 100 の言葉（中島 輝 2017）

健康を守る 「人を救うにはまず自分が健康でなくてはならない」日本救急医学会からのメッセージです。私が医師になる少し前、24 時間戦えますか？が流行語でしたが、時代は変わりました。しかし「さびしい事は、する仕事のない事」という福澤心訓の一条は今に生きています。皆様の健康を守るこの仕事に誇りと使命感を持ちつつ、自らの心身の健康も守らなくてはならない、還暦を過ぎて思うところです。健やかな明日のために、最後にこんな言葉をどうぞ。

「気高い夢を見ることです。あなたは、あなたの夢見た人間になるでしょう」

～原因と結果の法則（ジェームズ・アレン 2003）

【副院長兼皮膚科診療部長 岡田 克之】

